

# 海外生活 エッセー

## ロンドン事務所

### ロンドンで英国文化を学ぶ ～服飾講座への参加を通じて～

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所 所長補佐 福田 いつか (岐阜県派遣)

ロンドン市内では、アートやファッションなどの分野を中心とした、6つの国立の芸術系単科大学(カレッジ)の連合体であるロンドン芸術大学をはじめ、アートや文化に関する教室が多く開かれています。赴任して1年が経ち、服飾関係の講座をいくつか受講しましたので、その経験を共有します。

#### → 経験や国籍を問わず、誰でも一から学べる

私が受講した講座は、主に座学と実技が一体になっている講座です。受講にあたっては、私は初心者ですが、無謀にも、服作りの中では難易度が高いと言われる、スーツづくりの講座を探しました。英国にはサヴィル・ロウというオーダーメイドの高級紳士服店が並ぶ有名な通りがあり(日本語の“背広”の語源とも言われています)、せっかくであればこの技術や歴史を学びたいと考えたからです。日本ではスーツづくりを学ぶ場合、専門学校に通うことが一般的ですが、英国では多くの専門的な講座が初心者からプロまで、年齢や国籍に制限なく開かれていることが印象的でした。

講座の受講料は、必要な材料や道具が全て含まれて、1時間換算で5,000円～8,000円程度、受講上限人数を4～8人程度と少人数に設定し、講座によってはアシスタント(学生で受講料を無料にする代わりに周りのサポートもする人)がいます。

講座の長さは、平日夜のコースでも3時間、土日だと6時間×2日間、あるいは複数週にわたって開かれる講座もあり、学ぶ内容は同じでも、その学ぶ方法の多さに驚かされます。1回の講座の時間は長いですが、間に30分程度のティータイムが挟まれる講座もあり、お茶を飲みながら先生や受講生同士で雑談をして親交を深めるなど、英国のティータイム文化も垣間見えました。時間管理も厳密ではなく、どの講座の先生と話しても、あくまでも楽しく技術を習得することを大事にしています。

#### → 自分のキャリアを見つめ直す一環

受講生は国籍も年齢もキャリアも違う人が集まり、その中には、現在建築の仕事をしていて服飾は未経験だが、新たなキャリア構築のために参加している人や、英国外から来て、このコースを受講したことを履歴書に書き、就職活動をするという方もいました。カレッジが行う数日間の短いコースであっても修了書が発行されて、履歴書に書くことができるのです。採用の際にインターンシップなどの本人の経験などを重視する英国や欧州の採用方式が、このように個人が自身の興味関心に沿ってスキルを磨き、人生を作り上げる姿勢を作っているように感じました。

#### → 世代を超えて生まれる交流、多文化理解

講座中は、老若男女関係なく、フラットに気さくな言葉遣いで議論や質問が飛び交います。このような前向きな交流を通じて、英国および欧州の文化に関する関心の高さを実感するとともに、英国の文化施設が寄附金などで運営されて成り立つ根源を見たように思います。諸先輩方から「趣味を通じて現地の人とつながることも、多文化理解につながる」という言葉をいただき飛び込んでみましたが、受講生との交流を通じて、日本や地元である岐阜県の文化を理解してもらうために、どのような手段があるのかを考える機会も増え、よい経験になっています。



初心者でも熟練のプロから直接学ぶことができます